

② 指導内容の精選と指導の重点化

子どもの発達の様相を0才時からとらえ、6段階に配列したのが、段階別教育内容表である。従って、ここには、指導すべき学習内容が提示してあるわけである。一方、この教育内容は、子どもたちが、社会自立に必要な獲得すべき生活経験領域の拡大の過程が示してあるわけである。4分野51項目で示した内容は、教育実践の場では更に細分化して目標が設定され、計画され、指導が展開される。ひとつひとつの目標達成が大切だとしても、果して可能だろうか。若し、可能であっても、表現化に視点をあてた本校の立場である、「意欲をもって、生き生きと取り組み、生活の中でよろこびをもつ」ような学習が可能だろうか。はなはだ疑問である。

また、指導法の中で、「意識づける」「必要感をもたせる」「生活に活かす」など、多くの実践の中でとられてきたが、それは可能なことなのか。例えば、金銭の指導では、自分が実際に稼ぐ段階でなければ、意識も必要感もわからないのが普通で、生活に活かすという態度も育たないだろう。「知らないより知っている方がよい」「できないよりできる方がよい」のでは、表現化に視点をあてた指導とはならない。「知っていなければならない」「できなければ困る」ことではいけぬ。そのためには、段階別教育内容のすべてが獲得されなければならないのではなく、子どもの実態にあわせ、実践場面での内容精選と重点をはっきりおさえることが重要である。例えば、身体的成熟によって獲得可能なもの。精神的成長により獲得可能なものなど見極め、時期をまてば到達する見通しのあるものなどを無理に計画に取り入れたいしないことである。

③ 家庭との連携

本校の教育が、子どもの生活経験領域の獲得、拡大の過程にあるから、家庭における家族の果たす役割は大きい。養護学校における教育は、家庭における子どもの生活を、学校が援助している面も多いわけである。例えば、身辺処理の習慣化などは、家庭でのくり返しの訓練の結果、学校の中でも定着してきたとみるべきものも多いはずである。従って、学校と家庭は不離一体となって教育は進められなければ、効果を期待することはできない。

小学部では、連絡ノートにより指導事項に対する意志の疎通を欠かぬよう相互に連絡しあって指導を強化している。中学部では、生徒に宿題を義務づけている。これは、従来のような予習、復習的なものや、学校でできなかったものを家庭にもち帰らせるというものではない。学校での学習を家庭でも家族ぐるみで取り組んでもらおうという意図である。更に、「生活に活かす」という観点から、家庭の中での取り組みを工夫してもらおうというもので、生徒、教師、家族の一体となった取り組みを進推しようとしているのである。

4 表現化に視点をあてた学習の評価

本校が基準としている段階別教育内容表は、経験領域表でもある。従って学習評価は、指導の結果から、どの段階のどの項目に到達しているかをみるわけである。同時に、学習の中での興味、関心意欲など

の取り組みの態度や心情面についても評価が行われる必要がある。理想的に言えば、単位時間毎に的確におさえられているのがよいだろうが、現実にはなかなかそうはいかない。

例えば1時間の授業を例にとれば、技能的な比較的目的でとらえやすいものは評価できる。態度、心情面はとらえにくいばかりか、その時間その時間で変りやすく、評価に時間をかける意味が少ない。

そこで、学習評価の基本的かまえとして次のように考えている。

- ① 知識、技能にかかわるものは、単位時間の評価を大切にしてい。右図は、高等部の木工の場合の例示である。
- ② 態度、心情にかかわるものは、単元を通すなど長い時間をかけて実施する。
- ③ 学期末毎に、経験領域の獲得拡大の状態を、通知表の評価観点(段階別教育内容表と対応させてある)により総合評価する。

以上の3つが基本的なかまえであるが、教師は自分の取り組みを常に反省し、軌道修正のための評価につとめるのは当然であろう。しかし、評価はあくまで指導のためにあるのだから、複雑な評価を組み立てて、指導に支障がくるようなことは決してしてはならないと思う。

5 問題点と今後の課題

以上、表現化に視点をあてた指導法の構想について述べた。この構想は、表現化に視点をあてた指導の基本路線を示したに過ぎず、囲碁で言えば定石に過ぎない。この構想は、一人ひとりの教師が、自分の持ち味を生かして、どう運用するかが重要なことなのである。

次に述べる各学部の実践事例は、表現化に視点をあてた指導の具体例であるが、研究体制の中で討議を重ねた理想とはほど遠い感がある。例えば、教科は道具としながら教科にとらわれていたり、生活化を目ざす立場や表現の視点がボケていたりで問題が多い。学校体制そのものに、表現化に視点をあてた検討が更に進められる必要もある。例えば、学級担任とか教科担任とかは、みな生活担任の立場から授業を見直す必要がある。日課表の検討も必要であろう。このように今後の課題は多いが、その緒についた実践について、項をあらためて述べる。

	個人目標	段階別	評価
表現化	・簡単な指示を聞いて、正しく作業できる。	G 1 0(3)	
	・製品の数を正しく数え、班員に報告できる。	A 9(4)	
	・簡単な反省文が日誌に書ける。	H 1 0(4)	
職業化	・ロープを正しく固定できる。	B 7(4)	
	・製品を整理・整とんできる。	N	
	・不良品を選別し、班員にその個所が指摘できる。	M 7(4)	
	・指導者の補助を得て、クギを打つことができる。	H 1(4)	
	・きめられた仕事を最後までし、無断で仕事を離れたりしない。	N 4, 6(4)	
	・使った材料や道具の始末ができる。	N 3(3)	
※ 備考			